

# 奇跡の花の物語

## いちばんの防災は忘れないこと

生涯学習講演会が7月18日、勤労青少年ホームで開かれました。

これは東日本大震災の犠牲となった佐藤愛梨さんの実話から、震災を経験し得た教訓「一番の防災は忘れないこと」の普及活動をすすめるアイリンプループプロジェクト実行委員会の菅原淳一さんをお迎えして開かれたものです。

講演会では愛梨さんの物語から、奇跡の花へつながり、震災の風化を防ぎ、防災への呼び掛けが説かれました。自分の地域の安全、危険地帯を把握すること、まずは自分も助かり、被災者同士で知恵を出し合いその場を乗り切ることに、大切な命を守るために誰でも理解できる防災アドバイザーを受けることが大事であるということが説かれました。

会場には約150人の皆さんが訪れ、涙ぐみながら防災の大切さに耳を傾けていました。



講演会の様子



# 平成30年度「少年の主張大会」中学生が日頃の思いを発表

小野町青少年健全育成町民会議主催の「少年の主張大会」が7月9日、小野中学校体育館で開かれました。

この大会は、中学生が日頃考えていることや感じていることを発表することにより、社会の一員としての自覚を高めるとともに、青少年の健全育成に対する理解を深めることを目的に毎年開かれているものです。

今回は、小野中学校の1年生から3年生までの計10人が、それぞれ自分の思いや願いを発表しました。

審査員5人による審査の結果、藤井万佑子さん(2年)が

最優秀賞に選ばれました。

藤井さんは、ノーベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんの「1人の子ども、1人の教師、1冊の本、1本のペン、それで世界は変えられます」ということばに感銘を受け「子どもたちが不自由なく学習ができれば、きっと世界は豊かになるはずですよ。世界を豊かに、世界を幸せに、世界を笑顔にするためには世界のみんで協力することが必要であり、自分自身にもできることがあるはずですよ。私も将来貧しい国などで支援活動をしていきたいと思っています」と発表しました。

審査の結果は、左記のとおりです。

なお最優秀賞と優秀賞の3人を少年の主張県大会に推薦します。



発表者の皆さん

(敬称略)

○最優秀賞

今から教わる幸せ  
2年 藤井 万佑子

○優秀賞(発表順)

みんなで理解・みんなで生活  
3年 渡邊 柚稀

メディアを疑う力  
3年 村上 香穂

○努力賞(発表順)

嫉妬というスイッチ  
2年 生天目 葉

「聴くこと・伝えること」  
3年 佐久間 莉央

勇気を変える“明日”  
2年 大和田 夏紀

生きるということ  
1年 長谷川 海斗

私を成長させた「力」  
3年 先崎 友輝

病とともに生きる  
1年 宮川 日向

私の中学校生活  
1年 石井 綸